

## 甲状腺外科草子 69 承前

### 名補佐官の城：大和郡山

杉野 圭三

大和郡山と聞いて思い浮かぶのは「金魚の町」のイメージであろう。「城」の印象は希薄だが10世紀ごろから存在し、筒井順慶、豊臣秀長、増田長盛、水野勝成、本田政勝、柳沢吉里らが城主となり明治まで続いた。

大和郡山城に行くには近鉄大和郡山駅のほうがJR大和郡山駅より近く便利である。しかし、その駅前には閑散とした街並みで観光客は少ない。



近鉄大和郡山駅前

大納言塚

城の近くの小さな林の中に豊臣秀長を祀る大納言塚がある。訪れる人は稀であるが、綺麗に整えられ、住民から大切にされ慕われていたことが窺われた。



堅牢な石垣と堀

城の石垣は高く堅牢に作られ周囲の堀と組み合わせた高い防御機能である。秀長配下の藤堂高虎らしい築城技術である。



追手門（梅林門）

南御門（永慶寺へ移築）

明治6年の廃城令により城郭は荒れ果てたが、その後追手門（梅林門）や櫓の復元が行われた。



追手向櫓

現在、天守閣は残っていないが、天守台の調査や整備が進められ、その頂上に登れば周囲が一望でき、素晴らしい景観が楽しめる。



整備された天守台



天守台からの眺望

享保九年（1724）に柳沢吉里が甲府から移封、城内には柳沢神社があり「柳沢文庫」として吉里の貴重な書画が保管されている。



柳沢神社と柳沢文庫

のどかな金魚養殖場

静かで美しい土地である。秀長も「夢のまた夢」と思っていたのであろうか？

参考：豊臣秀長（堺屋太一）、Wikipedia

（一甲状腺外科医の徒然なる随想）

2023年7月5日